

令和3年度 第2回宇治市水道事業経営審議会議事録

会議名	令和3年度 第2回宇治市水道事業経営審議会
日時	令和3年10月12日(火) 午後3時00分～午後5時00分
場所	宇治市役所8階 大会議室
出席者	<p>(委員) 西垣会長 向畑副会長 伊木委員 岐部委員 島津委員 向山委員 保田委員 山崎委員 山本委員</p> <p>(事務局) 山田上下水道部長 蒲原上下水道部副部長 中村上下水道部 技術参事 塚本営業課長 津田工務課長 藤井配水課長 藤井 水管理センター場長 野口水道総務課副課長 中井工務課係長 藤川水道総務課主任 多田水道総務課主任</p> <p>(傍聴者) 1名</p>
1	開会
2	部長挨拶
3	<p>議事 専門部会からの報告・審議 「収支改善施策について」</p> <p>(会長) 収支改善のための施策について、内容が多岐にわたるため、施策ごとに審議を進める。</p> <p>施策1：遊休資産の利活用や売却等 事務局より、説明を行った。(資料P.1)</p> <p>質疑応答</p> <p>(委員) 宇治市水道に事業として使用していない財産があるのなら、売却しても良いと思う。</p> <p>(委員) 遊休資産はどれくらいあるのか。どれくらい放っておいたのか。</p> <p>(事務局) 山間地の資産もあり、実際に売れそうなものは、市街地に存在する資産であり、具体的に売却できそうな箇所は検討中。昨年使わなくなった施設もあれば、十数年間お置いたまま休止した施設もある。</p> <p>(委員) 休止した施設は非常事態に使えるようにしていたのか。</p> <p>(事務局) 非常時の想定がないわけではないが施設の撤去にもお金がかかる。</p> <p>(委員) 売却した場合の金額はわかるのか。</p> <p>(事務局) 売却箇所の特定を検討中のため、具体的な金額を出せる状況ではない。</p> <p>(委員) 山間部の施設などは、期待できないのか。</p> <p>(事務局) 山間地は市街地ではないので建物が建てられないことを考えると期待は</p>

薄い。

- (会 長) これまで資産の売却は検討していなかったが、新しく資産の保有形態を変えていく、これから積極的に活用を図っていくということだと思う。
- (委 員) 収支改善施策は経常収支を改善するのが重要で、この施策は資本的収支であるため、位置づけをとらえなおした方がいいのでは。
- (事 務 局) 遊休資産の売却は資本的収入だが、企業債発行を抑制するなど長期的な視点での収支改善策となり得ると考えている。
- (委 員) 資産売却は一時的収入となるので、他の施策とは違う位置づけになると思う。

施策2：営業業務の民間委託について

事務局より、説明を行った。(資料P. 2)

質疑応答

- (委 員) 令和6年度には全て民間委託するのか。コスト削減とは。
- (事 務 局) 多くの業務を委託することで、スケールメリットを生かしたコスト削減が期待できる。民間のノウハウによる行政サービスの向上も期待している。
- (委 員) 民間委託するとすごくコストが下がるイメージも持っているが、水道の分野では良い選択とは思えない。資料に記載されているものはいいが、それ以外を委託してほしくない。他の業務の委託も考えているのか。
- (事 務 局) 資料に挙げた業務を委託の対象としている。
- (委 員) 水道の業務を全て民間委託した県もあると聞くが、それは困る。一度民間委託すると戻れない。電気、ガスは民間だと思うが。
- (会 長) 委託を実施している他団体でのメリット・デメリットを検証しながら、慎重に検討を進めていただくようお願いしたい。

施策3：水道施設再編成、府内水道事業者との広域連携

事務局より、説明を行った。(資料P. 3～4)

質疑応答

- (委 員) 水道の施設は老朽化に伴う更新しないといけないと思うが、今更新をした方がいいのか。
- (事 務 局) 安心して安全な水を提供するために、10年間で約180億円の投資を計画的に行う必要がある。広域的に使えば経費削減も期待できる。京都府と連携を図りながらやっていきたい。

- (会 長) 水道事業のコストの約8割が固定費。規模のメリットを活かせば安くなる。京都府では府と市の計画でメリットが出せるようなシミュレーションをしている。京都府も南部最大の都市である宇治市に期待している。
- (事 務 局) 本日欠席の横川委員からは文書で、和歌山市水管橋崩落の件もあるので、いざという時のために広域連携の充実を図ってほしいというご意見をいただいている。
- (会 長) 市民にはメリットや期待できることを説明することが大事。京都府や宇治市の施設をうまく使うことでコストを削減できる。京都府でもコスト削減効果や職員の教育を連携する案を検討している。
- (委 員) 色んな削減効果を市民にもわかりやすく説明するということがすごく重要だと思う。普段何気なく使っている水について、どのようにされているのか委員になって初めてわかった。水道料金が上がると生活に直結するので、市民にわかりやすく説明してほしい。
- (委 員) 水道施設再編成は人口減少が影響しているのか。
- (事 務 局) 将来の水需要予測に対して一定の予備力を確保した上で、再編成している。
- (委 員) 施設の規模を縮小しすぎて、何かあった時に水が届かないことがないようにお願いしたい。
- (事 務 局) 事故等にも対応できるようバックアップ体制や余力を確保した上で縮減する設定をしている。人口が急激に伸びた時期の施設を、余剰があるため見直していく。

施策4：上下水道部の組織再編

事務局より、説明を行った。(資料P.5)

質疑応答

- (事 務 局) 本日欠席の清水委員より、「維持管理や施設更新、災害対策に対応できる体制の確保は必要」というご意見をいただいている。また、事務部門で検討されるとのことだが、技術部門の再編は行わないのかとの質問もいただいた。ビジョンで示している通り、今後工事が多くなるので技術部門は現在の体制が必要、事務部門の効率化を図る予定。
- (会 長) 和歌山市で水管橋の崩落事故があった。今後地震などが起こると心配なので、更新投資は重要である。
- (委 員) コストの削減は具体的にどのくらい効果があるのか。また目標は。
- (事 務 局) 他市の事例では、上下水道の同じような事務を効果的・効率的に実施されているところもあり、まだ検討中の段階。

(会 長) 料金改定の前に、削減できることは削減することが重要。検討が進めば教えていただきたい。

施策5：公用車経費の見直し、債券運用等の収入確保

事務局より、説明を行った。(資料P.6)

質疑応答

(委 員) 家庭用の車でも6万キロは普通に走っているし、公用車ももっと使えると思う。

(事務局) 公用車も16年使用するとかなり痛んでいるが、今後は使えるまで使うという考え方で、無駄にならないよう更新していく。

(会 長) 一層の取り組みを期待する。資産運用の件について、他事業会計への貸付など、内部的には非常に効果的であると思う。

(副会長) 京都市では会計間で資金需要に差があるため金利等の基準を定めており、内部で短期間の資金運用により収益を上げた実績もあるが、宇治市ではそのような運用が取れないのか。

(委 員) 金利の差があるが、どこまでリスクを取れるか。収入確保の観点から、元本保証が基本で、金利が高いところに貸し付けをするというのがいいのでは。資金融通は収入の確保とは視点が違う。どちらを優先すべきか議論が必要。

(会 長) 専門部会でもう一度議論をしていただく。

施策6：建設改良費に充てる国庫補助金の獲得

事務局より、説明を行った。(資料P.7)

質疑応答

(委 員) 国庫補助金はできるだけ獲得する方がいい。先日の和歌山市の件もあるが、将来どんな補助制度ができるかは情勢にもよる。計画的に補助金を確保するのは難しいと思うが、情報をしっかりつかんで運営してほしい。

(委 員) 10ページに鉛製給水管とあるが、もう鉛製はほとんどないものと思っていた。健康被害はないのか。国の補助事業対象にならないのか。

(事務局) 鉛製給水管は補助対象にならない。宇治市の残存状況は、概ね85%は布設替えを完了している。安全性に関しては日常使用では問題ない。長期間使用しない場合の注意をホームページで広報している。鉛製給水管は漏水しやすいので、本管布設替えや下水工事等に併せて経費を抑えな

がら更新している。

(委員) 今も鉛を使っていることに驚いている。人が飲む水だし、個人的には少しでも早く撤去してほしい。

(会長) 鉛製の給水管工事は費用もかさむので、一度に変えるのは難しい。

(委員) だからこそ、補助金がほしいところ。

(副会長) 宇治市ではどんな形で鉛製給水管が残っているのか。

(事務局) 主に道路上の給水管。

(副会長) 京都市では道路部分は市の事業として取替えており、宅地内に多く残っている。所有者が自分で工事されることになるため一部補助金を出しているが、解消は難しい。

(会長) 色々な補助金があると思うが、取れるものは取ってってもらいたい。先を見通して戦略的に獲得してほしい。

施策7：企業債発行のあり方

事務局より、説明を行った。(資料P.8～10)

質疑応答

(事務局) 清水委員からは、「難しい問題だが、個人的にはA案とB案の中間が良いと思う。シミュレーションした上で決めた方がよい」というご意見をいただいている。

(会長) 起債残高がどれくらいか、資金余剰を持てるかなど、企業として安定した経営ができるかを検討しなくてはならない。

(委員) 清水委員のご意見は合理的。ビジョンの中の収益的収支では減価償却費が増えていくが、収益的収支の赤字額を上回るため、現金ベースでの収益的収支はおそらく黒字になる。剰余資金をどれくらいに設定するのだが、A案ではそこまで出ない。B案では補助金の額にもよるが、企業債発行が減ると思う。数値を見ないとわからないので、資金残高の試算が出てから次回の専門部会で議論したい。10年で減価償却費が8億から12億に増えているが、施設ベースの残高が増えることによる影響か。

(事務局) 平成28年ごろから施設の更新投資に大きな金額をかけており、この10年も力を入れてやっていくため、資産が新しくなることにより減価償却費が増える。

(委員) 資金残高が令和6年度からマイナスになっている。資産が増えているなら違和感がある。

施策8：低所得者向け料金のあり方

事務局より、説明を行った。(資料P. 11)

質疑応答

- (会長) 低所得者料金のあり方については、他団体では一般会計の補助でやっているところもある。専門部会の意見としては、今後再検討する必要があると考えている。感染症による経済への影響もあるため、今の時期としては検討するのは難しいと思うが。
- (委員) 専門部会の意見でよいと思う。水道料金が軽減される対象は生活保護世帯なのか。
- (事務局) 生活保護基準の所得以下の世帯を軽減している。
- (委員) 水道料金以外にも電気やガスでも同じような制度はあるのか。
- (会長) 軽減はないと思うが、市の福祉施策として生活保護費の中に入っているかもしれない。
- (委員) 水道料金ではなく福祉の施策でなら良いということか。前回5年前の審議会でも同じ議論がなされたのでは。
- (委員) 議論はしたが他の論点で時間がかかり、あまり深く議論できていない。激変緩和など周期的な措置を組み合わせながらやるべきでは。今回の審議会でも5月から数ヶ月の審議で料金改定の結論を出すのは厳しい。
- (会長) 前回議論はしたが、結論には至っていない。激変緩和措置や他団体の状況などを考慮しながら検討を進めていくのがいいと思う。
- (委員) 生活に困って水道を止められた人から話を聞いたことがある。手厚い配慮をお願いしたい。
- (会長) 何らかの形で低所得者への配慮を継続すべきという意見かと思う。

施策9：料金体系の見直し(用途別→口径別)

事務局より、説明を行った。(資料P. 12～14)

質疑応答

- (会長) 多くの自治体は口径別に移行している。用途別は水道を普及させるための施策だった。14ページの資料では、家庭用の供給単価は非常に安くなっている。
- (委員) どれだけ使えばどれだけ上がるのか、この資料からはよくわからない。
- (会長) 料金体系については、更新投資の負担のあり方を見直す時期に来ていると思うが、料金体系の変更と値上げのダブルパンチとならないようにしてもらいたい。
- (委員) どれくらい水道料金が上がるのか。下がるところもあるのか。具体的な

影響を教えてください。

- (事務局) 例えば14ページ、現在の用途別料金のまま口径別に集計し直した表で見ると、用途別では家庭用の供給単価は143円であるのが、口径別になると13mmや20mmなどが多いのだが、148円や144円と、ほぼ変わらない単価になる。しかし、営業用は用途別の供給単価が214円であるのが100mmの口径を使用するところだと270円になるように、使用者によって上がったり下がったりする影響が出るが、あくまで全体の供給単価であり、料金設定についても提示できていない。具体的な影響は次回の専門部会で示したい。

3 その他

質疑応答

- (会長) 最後に何かご意見があれば。
- (委員) 前回5年前に水道料金が上がって、また数年で上がるのはなぜか。経緯を聞きたい。
- (事務局) 水道施設の更新投資を行うと、減価償却費が増えていく。今回も投資を行うので、それが水道料金に影響している。
- (会長) 補足すると、京都府の用水供給事業も更新投資をしている。その結果、減価償却費が増加し、受水費が上がっていることも影響している。
- (委員) 前回の審議会は中間見直しで対象となる期間が短かった。今回は10年計画のため、より長期的なスパンで体系や企業債の発行を見ていかないといけない。
- (会長) 本日の審議会に出たご意見について、もう一度専門部会で議論し、最終の審議会で審議を行いたい

4 閉会